

◆ご親教「日進月歩」◆

豹死留皮 ひょうしりゅうひ

導師 現楠
げんなん

「ただ生きる 生きる源 一向口唱」
い い みなもと いっこうくしやう

この本年の信行指針について、

——この世に存在する我々は、唯一無二の存在。
ゆい いっむ に

ただ生きているだけで価値や意味がある。このことに気づくことができたのは、お題目を口唱する正しいご信仰があればこそ。
だいもく

「生きる」という言葉には、いろいろな意味が含まれている。
ふく

知識や経験をいかす。本来の力を発揮する。自らの生を誠実に歩むことが他者の助けにもつながるという、他者への貢献などの意味もある。
はつき せいじつ こうけん

お互いさま、自分らしく、自分のペースでこの一瞬一瞬を生ききろうでは

ありませんか。――
と、申しました。



昨年、二十二歳の若さで亡くなった青年の生きざまが、インターネット上で話題となりました。



北海道の大学に入学した半年後、国内で症例が年間二十例ほどしか無い「希少がん」と診断されました。その後、二年間にわたり大がかりな手術と、抗がん剤治療を受けてきました。

日に日に病状が悪化する中、

「取り乱しても治るわけじゃないし、来世に期待だ！」

「思ってたより、パソコンゲームするのって体力いるんだなあ！」

などと日々感じたことを、ユーモアを交えてX（旧ツイッター）や自身のブログに頻繁に投稿し続けました。

その後、余命一か月と宣告され、緩和ケア病棟に移りました。

そして「多分そろそろ死ぬ」と投稿した二日後に亡くなったのです。

生前、家族や大勢の友人たちから愛され、慕^{した}われてきた彼の死を、親友が代理をして、彼のXやブログで報告をしました。

すると翌日に、何と、亡くなった本人から「グエー 死んだンゴ」と投稿があったのです。驚いたことに死期を悟った彼は、Xやブログに生前、投稿を予約し、自身の死を亡くなった後に報告出来るようにしていたのでした。

いささか不謹慎^{ふきんしん}のように思えますが「グエー 死んだンゴ」はインターネットの中でのネットスラングだそうです。

「グエー」とは、追い詰められたり、ショックを受けたりしたときの断末魔^{だんまつま}の叫び。

「死んだ」とは、物理的な死ではなく、インターネット上での論破^{ろんぱ}や失敗による精神的なダメージのこと。

「ンゴ」とは、失敗した際などに語尾につける、愛嬌^{あいぎょう}や自虐^{じぎやく}を込める言葉。

つまり「グエー 死んだンゴ」は、通常ネット上では、「失敗してしまった」「もうだめだ」という自虐的な表現に加え、死んだふりをして、「煽^{あお}らないで」「もう死んでいるから攻撃しないで」というネットスラングだそうです。

亡くなった本人からの投稿に、家族や友人たちはもちろんのこと、多くのインターネットユーザーが驚き、深い哀悼の意が表されました。

その後、思いがけない展開が待っていました。

驚いたことに「香典代わりに」「彼の思いを、ぜひ研究に生かしてほしい」などと、がんの研究や、治療にあたる医療機関への寄付が相次いだのです。

過去にこのような事例は、全くなかったそうです。

ある医療機関には、今まで年間約六十件ほどの寄付がありました。彼が亡くなった四か月後には、一千六百件を超える寄付があったそうです。

このことを彼が意図していたかどうかは分かりませんが、亡くなった後に大きな花を咲かせたのではないかと感じました。

幼い頃から父親の働く姿を見て、将来は農業関係の機械を作りたいと大学に入學した矢先、病に見舞われてしまいました。約二年にわたる闘病生活も、つらく、苦しい日々だったに違いないと思います。



二祖日琇聖人にっしゅうのみ教えに「能忍のうにん」があります。



——つらいこと、くるしいことなどを不平不満を抱きながら耐え忍ぶのではなく、思いを変え、喜び、素直な心、柔和忍辱の心をもって耐え忍ぶこと。

さすればやがて困難を乗り越えることができる。——
と説いておられます。

幼い頃から弱音を吐かず、優しく、家族思いで、ウイットに富んだ彼は、「能忍」の生涯を送ったのでは無いでしょうか。

自らの生を誠実に歩むことにより他者への助け、貢献につながり、短いながらも大変立派な人生を送られたのだと感じ、ご冥福をお祈りいたしました。ことわざに、

「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す」

とあります。

獣の王者である虎は、死後も皮となって珍重されるが、人はその死後に、残した名誉や、功績により、その名を残す、とあります。

お互いさま、亡くなった後にも功績が残るよう、日々努力精進しながら、一向口唱し、一瞬一瞬を精一杯生ききろうではありませんか。